

## 成果報告書 1

### 1. 台東区立忍岡小学校

### 2. 活動テーマ 「わたしたちの海について知ろう！学ぼう！体験しよう！」

### 3. 実践の概要・ねらい

島国である日本は周りを海に囲まれている。その海で生きる生物や、人と海との関わりなど、自然観察から歴史まで幅広く海について調べる活動を行うことを通して、児童の興味を広げ、自ら課題を見つけ主体的に追究できるようにする。

### 4. 実践計画

#### ①テーマ・概要・活動計画・教科との関連

学年	テーマ	概要	活動計画	教科との関連
全	海と池の生き物を観察しよう	玄関前に設置した海水・淡水の水槽の生物を観察し調べる。	年間を通して	理科、総合的な学習の時間、生活科
4	海調べ隊	海について調べる	年間 70 時間	総合的な学習の時間、理科
6	海を越えて	日本と海外との関わりを調べ、異文化交流をする	年間 70 時間	総合的な学習の時間、社会
科学クラブ	海とのかかわりを見つけよう	標本作りを通して、海の生物の多様性に気付く。	年間 9 時間	理科、社会

#### ②実践の評価について

- ・年間3回以上の発表の場を設ける。
- ・全校の9割以上の児童が海洋への関心をもつ。
- ・4年生、6年生に関しては、全員が自ら課題をもち、追究しようとする。

### 5. 今年度の実践

#### ① 計画からの追加・変更点

科学クラブ 根津の谷巡検を行い、地域の歴史的变化を知り、海とのつながりを考える。

#### ② 実践の成果

様々な体験活動、観察活動を通して、児童は興味の幅を広げることができた。子供によってさらに深く自ら課題を見つけ意欲的に調べ活動をすることができた。様々な体験が、児童の主体的な探究活動を引き出した。

#### ③ 次年度への課題

科学クラブ及び該当学年の活動が主流であったので、それ以外の学年、特に低学年で今後は海洋教育の計画を立て進めることが課題である。今後とも様々な活動を通して、海洋教育の学習を続けていきたい。

### 6. 主な連携機関及び内容

- ① 〈東京大学〉：講師の先生を招き、授業や講義をお願いした。小学校教員だけでは難しい、専門的な話をわかりやすく説明していただいた。
- ② 〈上野中学校〉：上野中学校の科学クラブの生徒とともに活動を行うことができた。

# 4年生「海調べ隊 ～岩井と葛西の海を比較して～」

## 【実践のねらい】

学区にある身近な不忍池に興味をもつことから学習を進め、海の生物やプランクトン等の微生物、海流、ごみ等、児童が自ら興味をもったことを深く調べる学習にしていく。そのために、専門家を招き、プランクトンについて解説してもらった後、岩井臨海学校を通して、岩井と葛西の海を比べる活動や、実際にプランクトンを採取して観察する体験活動を取り入れていく。

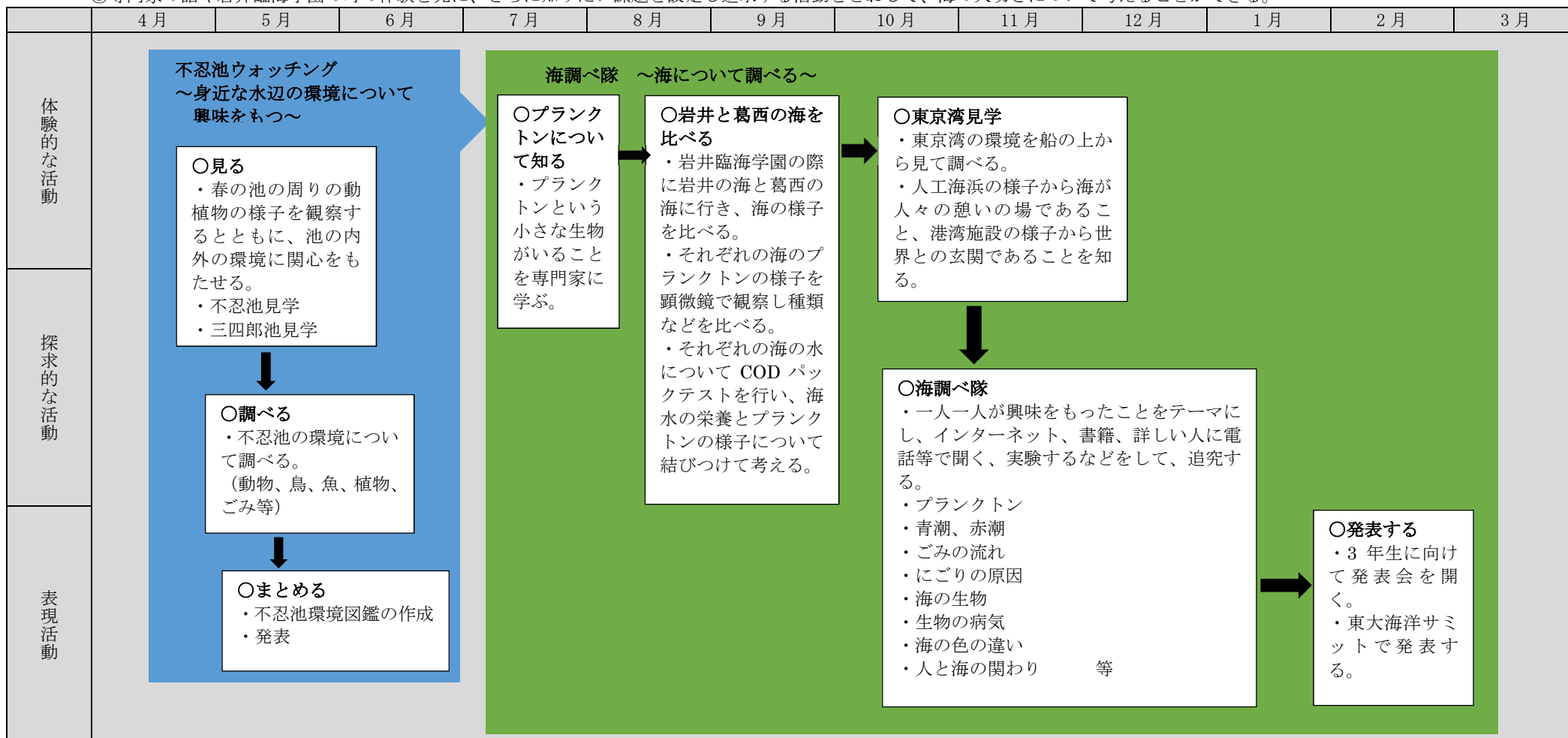
その後、今まで海について学習してきたことを振り返り、さらに追究したいことを課題に設定し、海流や赤潮、プランクトン、サンゴ、イソギンチャクなど、海のことについて様々なテーマで調べ、調べたことを発表しあう場をもつことを通して、海の環境や人と海の関係について主体的に考えようとする力を育む。

## 【主な連携機関】

・東京大学

○時数 70 時間

- 目標
- ① 専門家から赤潮やプランクトンの話を聞き、海について関心をもつことができる。
  - ② 岩井臨海学園のときに、岩井の海と葛西の海を比較し観察することで違いに気付かせる。
  - ③ 専門家の話や岩井臨海学園の時の体験を元に、さらに知りたい課題を設定し追求する活動とおして、海の大切さについて考えることができる。



# 6年生「海を越えてつながる人々～海の前にあるもの」

## 【実践のねらい】

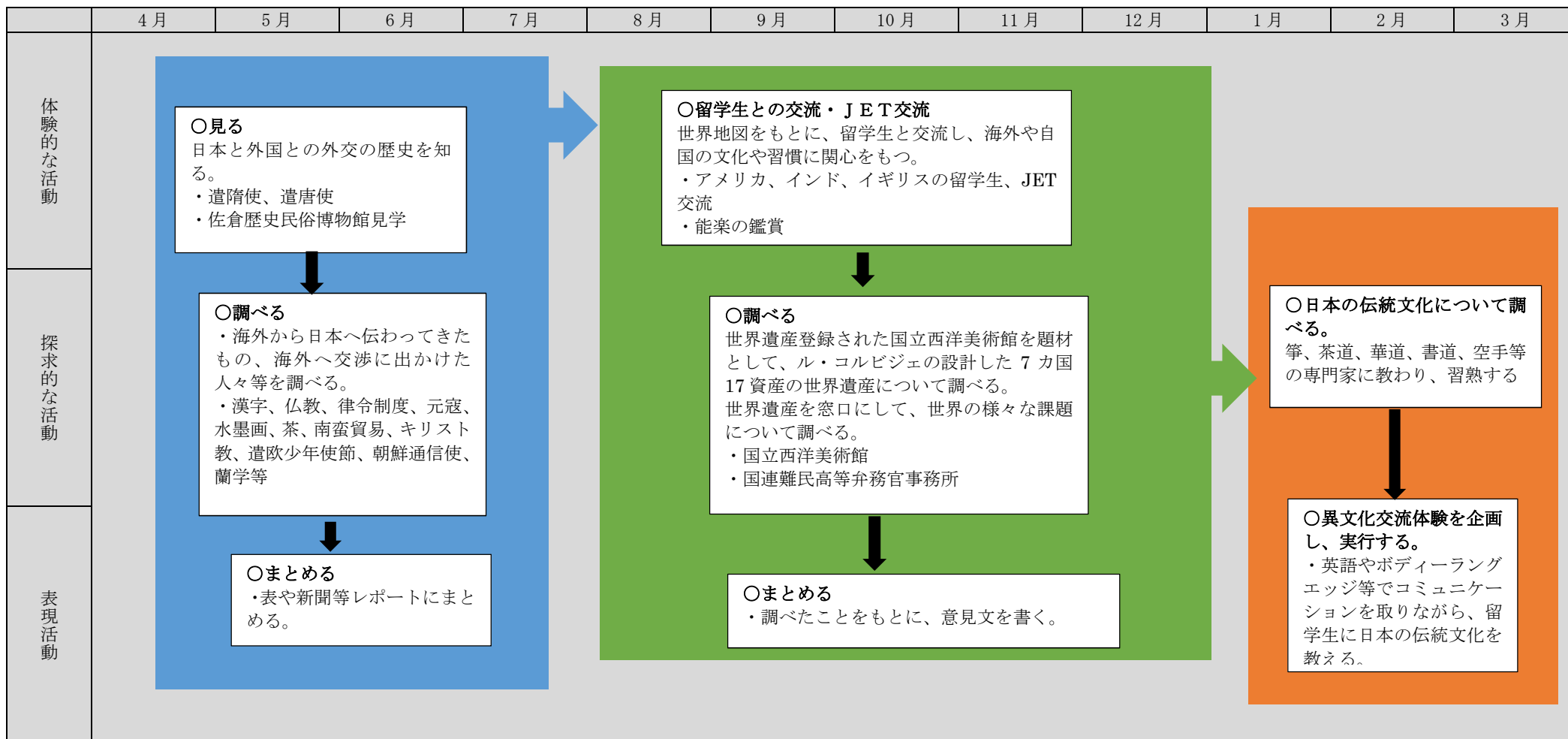
歴史の学習と連携し、日本人と海との関係を学習する。朝鮮半島から渡来人が日本列島に来たことや遣隋使、遣唐使の歴史について学び、仏教を始め、さまざまな学問や文化が、海を渡って日本に伝わってきたことを学んだ後、千葉県佐倉市の国立歴史民族博物館へ見学に行き、島国である日本がいつの時代も海を越えて外国とつながっていたことを実際に展示されている資料やレプリカで体験し学ぶ。さらには、国際理解的な視点も取り入れ留学生との交流や、日本の伝統・文化の学習とつなげていくことを通して、他国を理解し、自らの国に誇りに思い、自己の生き方を考える児童を育む。

## 【主な連携機関】

- ・国立歴史民俗博物館
- ・東京大学留学生センター
- ・上野高校

○時数 30 時間

- 目標
- (1) 昔から海を越えて人々の交流があったことを知り、海が人々や物をつなぐ交通手段であったことを知る。
  - (2) 日本と海外との関わりに関心を持ち、進んで調べる。
  - (3) 他国の文化や日本の伝統文化に関心を持ち、それらを通じて積極的に交流しようとする。



# 科学クラブ「海の生き物を調べよう」「昔の海を考えよう」

## 【実践のねらい】

学校玄関正面に淡水と海水の水槽の観察を通して、水の中にすむ生物には様々な種類の生物がいることに気が付かせる。さらにはチリメンジャコの中にある様々な生物を探し出して観察し、図鑑で名前や生物学上での分類を調べ、標本作りを行うことで、海に生きる生物の多様性に目を向け、海の大切さを感じさせる。また、さらには、地元のフィールドワークを通して、現在自分たちが住む地形に海や川が深く関わっていたことを知り、海の大切さについて深く考える力を育てる。

## 【主な連携機関】

- ・ 東京大学 茅根教授  
川上真也先生
- ・ (株) かね上

○時数 7時間

- 目標 (1) 標本作りを通して、海の中には、様々な生き物がいることを知り、海の生物の多様性について気付くことができる。  
(2) 大地の変化には海や川が重要な役割を果たしていたこと、海や川を昔から人が利用していたことを知る。  
(3) 海の大切さについて考えることができる。

